

試聴会・訪問記掲載

上新電機オーディオテクニカ製品試聴会報告（2025.7.26）

1. はじめに

上新電機日本橋店で開催されたオーディオテクニカのアナログ製品試聴会に行ってきました。

2. 開催要項と使用機器

開催日：7月26日（土）

1部：11時～12時30分

2部：14時～15時30分

開催場所：上新日本橋店 5F リファレンスルーム

使用機材：

レコードプレーヤー：AT-LPA2、AT-LP8X

カートリッジ：AT-VM740xML、AT-VM745xML、AT-VM750xSH
AT-VM760xSL

ケーブル：AT-IC1000X、AT-TC1000、AT-SC1000

スピーカー：B&W 804D4

プリメインアンプ：アキュフェーズ E-700

フォノイコライザー：アキュフェーズ C-57



当日のセッティング

当日の目玉は、新発売のプレーヤーAT-LPA2です。

試聴に先立って資料の提示や説明がありましたが、下記の記事にも紹介があります。

<https://online.stereosound.co.jp/ct/17766156>



3. 試聴会の経過

上記スケジュールの第1部に参加しました。

前半は、AT-LP8X を使用しての同社のカートリッジの聴き比べ、後半は新製品の AT-LPA2 の紹介を周辺の条件を変えながら音質改善という構成でした。

まずは、AT-LP8X のカートリッジの旧製品と新製品の比較から始まり、

AT-VM740xML のアルミカンチレバーとボロンカンチレバーの違い、AT-VM740xML から AT-VM750xSH、さらに AT-VM760xSL へと男性ボーカル、イーグルス、リンダ・ロンシュタット、ジャズのビッグバンドなどで、カートリッジのグレードの違いを検証していきました。

AT-VM760xSL では、カラヤン指揮ベルリンフィルのヴィヴァルディの「四季」と女性ボーカルがかかりましたが、「四季」では定位があまく、弦の質感ももどかしさが残りました。

ここで、カートリッジやケーブルを同じにして、AT-LP8X から新製品の AT-LPA2 に、プレーヤー本体だけを替えるとどうなるかをメータ指揮ロサンジェルスフィルのスターウォーズのテーマ音楽で比較しましたが、明らかに解像度が上がりました。

ここからは、AT-LPA2 の音質をさらに改善できるかどうかということで、ビル・エバンスで、純正 MC カートリッジからグレードを上げるとどうなるか、電源ケーブルを替えるとどうなるか、さらに戦艦ヤマトのテーマ音楽で、フォノケーブルをバランスケーブルに替えるとどうなるかなどのデモがあり、特にフォノケーブルの交換は大きな効果がありました。

最後にリクエストで、カラヤンの四季に戻ってもらったところ、AT-LPA2 のバランスアウト、C-57 のバランス受けのデフォルトの位相反転で、先ほどのアンバランスアウトに比べ、定位の改善や質感の改善がありました。なお、四季のグラモフォン盤が逆相であり、アンバランス接続では位相反転はなく、定位が曖昧であったことがはっきりしました。アキュフェーズのフォノイコライザーはバランス受けのデフォルトで

は位相反転であり、アンバランス受けでは位相反転ではないということはアキュフェーズから以前に説明を受けていました。

4. まとめ

新発売のプレーヤーAT-LPA2 は、価格を考えると音質はよく、ケーブル類の交換やバランス接続の効果も期待できるものでした。

ちょうどカラヤンのグラモフォン盤の試聴により、アキュフェーズ C-57 のバランス接続とアンバランス接続の位相の違いが検証されたことは有益な知見でした。

以上